

論壇

成長戦略の効果は限定的

コロナ危機で日本経済は厳しい状況にある。いつ経済は回復するのだろうか。どのようなきっかけで回復が進むのだろうか。職業がら、こうした質問をいろいろなところで受けるが、正直なかなか答えるのが難しい問題である。

ワクチンが開発されて以前と同じように自由に動けるようになり、多くの人が集まって活動ができるようになれば、今私たちが感じている閉塞感はなくなるだろう。でも、元に戻るということでは経済が回復したとはとても言え

元重 伊藤 (国際経済学) 大学院教授

ない。20年ぐらい前から日本はデフレでずっと苦しんできた。そうした中でリーマン・ショックや東日本大震災などの大きな危機が起こると、経済はさらに傷んだ。それでも景気を少しでも活性化するために財政政策や金融政策を動員してきた。それで失業率など

こうした状況を構造的不況という。生産性が上がらないので、政府がいくら財政政策や金融政策で力を出してこないのだ。それが分かっているのに、政府も成長戦略などを行ってきたが、その効果は限定的であった。コロナ危機から抜

「経済回復」のきっかけ

は大幅に減ったが、経済が元気になったと実感している人は少ない。アベノミクスはそれ以前の危機的な状況から日本を救ったことは確かだが、それでも景気が良いという実感は持てなかった。最近では、コロナ危機が起こる前から経済は下落局面に入っていた。

け出して経済が元の状態に戻ったとしても、日本では相変わらずデフレの苦しみが続くことになる。災い転じて福となす。こうしたデフレのわなから抜け出す機会が、コロナショックによって出てきた。そのキーワードが、DX(デジタルトランスフォーメーショ

ン)である。DXとは急速に進化するデジタル技術を推進力にして社会を変えることである。コロナ危機以前からDXの重要性は指摘されてきたが、日本社会はなかなか動かなかった。オンライン診療は進まないし、教育でのeラーニングも広まらない。長時間の通勤時間をかけて多くの人がオフィスに集まる。政府のサービスのデジタル化も遅れていた。

デジタル化で創造的破壊

今回のコロナ危機で、日本社会のデジタル化の遅れが白日に晒された。企業も学校も政府も必死になつてDXを進めていく必要に迫られている。eラーニングや在宅勤務などは教育や仕事の単なる手

法ではない。それによって教育の姿が大きく変わり、私たちの働き方やワークライフバランスが大きく変わるのだ。

経済学者のシュンペーターが言っているように、技術革新は社会を「創造的に破壊」する。古いものを壊していくことではじめて新しいものが創造されるというのだ。これまでのやり方に慣れている人にとつてはあまりうれしい話ではない。変化することを拒む姿勢がこれまでの日本の社会の停滞の原因でもあった。ただ、コロナ危機でそんなことは言っていられなくなっている。創造的破壊は決して楽なことではないが、コロナ危機を日本の復活に結びつけるためにはDXを進めることが必要である。